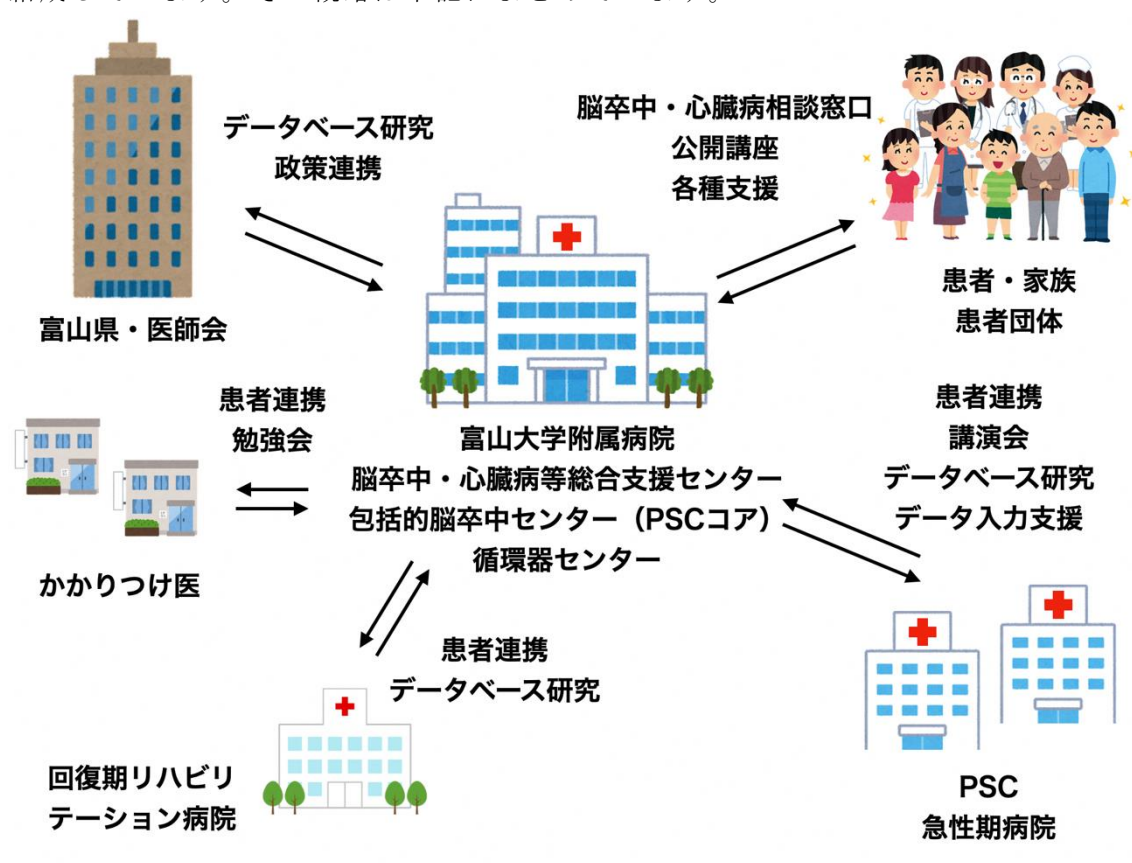


富山大学附属病院・脳卒中・心臓病等総合支援センター

富山大学附属病院 脳神経外科 黒田 敏

2022年度、当院は厚生労働省が初めてスタートさせた「脳卒中・心臓病等総合支援センター」のモデル事業にて、全国で10都道府県12病院の一つとして指定されました。このセンターの理念は、脳卒中や心臓病等に関する専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関として、当院のみならず富山県、医師会、県内の医療施設、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、かかりつけ医、患者・家族、そして患者団体などと連携しながら、富山県全体の脳卒中・心臓病等の患者さん、ご家族に対して、脳卒中・心臓病等の予防、治療、リハビリテーションなどにおける包括的な支援体制を体系的に構築することです。それによって、富山県における患者さんの支援体制を今まで以上に充実させることを目的としています。当院では、その目的を達成するために脳卒中、心臓病に関連する医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、リハビリテーション技師、事務など多職種の専門家がチームを結成しています。その概略は下記にまとめています。



2022 年度は初年度ということもあり、フル稼働には到っていませんが、以下の事業を順次展開していく予定です。

a) 地域連携に基づく脳卒中・心臓病対策、患者支援

地域包括ケアシステムなどの医療・介護・福祉の連携に有用な脳卒中・心臓病支援チームを、多職種（医師、看護師、リハビリ技師、検査技師、薬剤師、MSW、ケアマネージャー、事務方など）をメンバーとして当院に構築する。脳卒中・心臓病支援チームは、「脳卒中・心臓病相談窓口」などを通して急性期の治療から始まり慢性期の介護に到る医療・介護・福祉・就労・障害に関する相談支援や、他施設・行政との連携を図る。

b) 急性期から回復期にかけてのスムーズなリハビリテーションの実施

脳卒中の発症後、可及的速やかに急性期リハビリテーションを積極的に実施するとともに、病院間連携契約を締結している回復期リハビリテーション病院へのスムーズな転院を実現させて、機能回復に最も重要とされる発症から最初の3ヶ月間に回復期リハビリテーションの効果を最大限に発揮させるよう努める。

c) 脳卒中・心臓病に関する適切な情報提供、相談支援

当院脳卒中・心臓病等総合支援センターに「脳卒中・心臓病相談窓口」を設置して多職種（医師、看護師、リハビリ技師、検査技師、薬剤師、MSW、ケアマネージャー、事務方など）によって構成されたチームで、医療、リハビリテーション、介護、身体障害の認定（運動障害、失語、嚥下障害、視覚障害、高次脳機能障害を含む）、心理サポート、就労・復職の支援、福祉サービスなどを手厚く支援する。また、この多職種チームは、疾患・治療方針・投薬内容・日常生活の注意点などについてこの窓口は、独自のパンフレットを使用して、その患者の理解の程度や生活背景に即した形で情報提供・教育を行なう。

d) 脳卒中・心臓病等の緩和ケア

当院脳卒中・心臓病等総合支援センターが中心となって急性期病院、回復期リハビリテーション病院、長期療養型病院が病院の枠を超えて、継続的に患者・家族の苦しみや悩みに対応する多職種チームを結成して緩和ケアを展開することで、患者のみならず家族のQOLを向上させることを目的とする。

具体的には、①患者本人に対する緩和ケア（環境整備）、②家族に対する緩和ケア（苦しみ・悲しみ・悩みへの傾聴、相談、支援）が主体として、医師、看護師、リハビリテーション技師、薬剤師、MSW、ケアマネージャー、必要であれば臨床心理士、宗教家を含む多職種チームを当院に設けて、富山県内の病院とネットワークを形成することで一つのチームとして活動する。当院に設置する「脳卒中・心臓病相談窓口」がこれらの活動の中心を担う。これらの多職種間の連携役を担うコーディネーター（看護師であることが望ましい）を配置することを目指す。

e) 脳卒中・心臓病等の後遺症を有する患者に対する支援

医療資源を積極的に活用して適切なタイミングに適切な支援を提供できるよう、多職種（医師、看護師、リハビリテーション技師、薬剤師、MSW、ケアマネージャー、事務方など）で構成されたチームが、定期的に個々の患者に必要なサービスを提供できる体制を整備するとともに、県内病院・施設とも連携できるようシステムを整備する。

f) 脳卒中・心臓病等患者の治療と仕事の両立支援・就労支援

脳卒中・心臓病等総合支援センターでは、「脳卒中・心臓病相談窓口」にある多職種チームが中心となって、患者の要望に応じて職場と交渉するなど、患者の復職や就職を促進できるよう努める。

g) 小児期・若年期から配慮が必要な脳卒中・心臓病等患者の長期的支援

脳卒中・心臓病等総合支援センターでは「脳卒中・心臓病相談窓口」にある多職種チームが中心となって、患者や家族の要望を踏まえつつ、適切な介護や福祉サービスを受けられるよう助言するほか、学校や職場と交渉して、できるだけスムーズな就学や就職ができるよう支援する。特に、小児期・若年期のもやもや病や先天性心疾患手術後の患者では、高次脳機能障害が就学や就職の妨げになることが多く、言語聴覚士、作業療法士の積極的介入が可能になるよう、院内体制を整備する。

h) 地域住民を対象とした情報提供、普及啓発

脳卒中の一次予防について広く地域住民に喚起、周知するために定期的に当院主催の市民公開講座を開催する。脳卒中に罹患した患者、その家族を対象とした、脳卒中再発予防、自宅でできるリハビリテーション、医療・福祉相談を目的とした会合を定期的に開催する。心不全ステージA及びBの段階から、積極的に一次予防の介入を行っていく。具体的には、市民公開講座の開催、新聞・テレビ・Web等のマスメディアを通じた情報提供、当科オリジナルなパンフレット等の作成により啓蒙活動を行っていく。

i) 地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会等の開催

地域の医療機関、かかりつけ医とのVPNネットワークを形成して、患者情報の共有を推進するとともに、かかりつけ医などが治療方針で迷った際にいつでも気軽に当院の専門医に相談できるシステムを構築する。また、年2～3回程度、対面＋遠隔で参加できる勉強会を開催して、病診連携の際の診療の質の向上に努めたい。

j) 効率的に支援するための資材（パンフレットなど）の開発・提供

患者・家族に対して多職種チームで作るパンフレットや冊子体を開発、提供する。